

機械器具 58 整形用器具器械のうち、骨接合用又は骨手術用器具

一般医療機器 骨手術用器械 70962001

ユニテック橈骨遠位端プレートシステム用手術器械

【警告】

- 1) 本品を使用する前に必ず洗浄と滅菌を行うこと。【**使用方法等**】「1. 使用前」の項参照

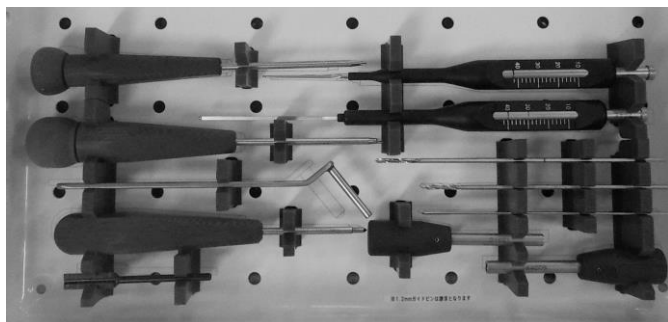
【禁忌・禁止】

- 1) 本添付文書に記載されている以外の骨接合用品に使用しないこと。[インプラントの破損の可能性がある]【**使用上の注意**】「2. 相互作用」の項参照
- 2) 本添付文書に記載されている以外の器具器械と併用しないこと。[器具器械の破損の可能性がある]【**使用上の注意**】「2. 相互作用」の項参照
- 3) 本品について、改造や加工等を行わないこと。[形状の変更や刻印をするなどの二次加工は破損等の原因となるため]
- 4) 使用目的以外の目的には使用しないこと。[器具器械の破損の可能性がある] 使用しないこと。[工具の安定性が保てなくなる恐れがあるため]

【形状・構造及び原理等】

* 1. 形状・構造

各製品の形状等（代表例）は以下のとおり。別途、オプション品が含まれる場合もある。
各製品名、製品番号、サイズ等については、同梱される一覧表および本体の表示を確認すること。



材質：ステンレス、アルミニウム、合成樹脂、ペークライト
チタン、PEEK

2. 原理

本品を手術手技に沿って用い、ユニテック橈骨遠位端プレートシステム（承認番号：21600BZ00388000）を骨折部に固定する。

【使用目的又は効果】

本品は骨接合手術に用いる手動式の手術器械であり再使用可能である。

【使用方法等】

1. 使用前

本品は未滅菌品のため各施設の洗浄方法に従い、必ず洗浄を行うこと。洗浄後、付着物がない事を確認し、必ず滅菌を行い使用すること。本品を滅菌する際、各医療機関により検証され確認された滅菌条件により滅菌を行うこと。

＜推奨滅菌例＞

滅菌器	温度	時間
高圧蒸気滅菌	121℃	20 分間※

※時間は被滅菌物のすべての部分が規定の温度に達してから起算する

2. 使用方法

ユニテック橈骨遠位端プレートシステム（承認番号 21600BZ00388000）の手術手順に沿って本品を使用する。

3. 使用後

本品の使用後は、出来るだけ早く洗浄し滅菌すること。【**保守・点検に係る事項**】欄参照）

* 4. 使用方法等における使用上の注意

- 1) 使用前に各手術器具の汚れや腐食、破損やキズ等の点検を行うこと。
- 2) ドリルは必ずドリルガイドを用いること。ドリル先に、軸圧力や、曲げ応力を加えると破損する恐れがあるので慎重に使用すること。
- 3) ガイドブロックは左右を必ず確認すること。
- 4) プレート 0309-XXX・0310-XXX・0311-XXX・0312-XXX・0313-XXX・0314-XXX 使用の際には、ロッキングドリルガイド、ロッキングドリルガイドロングをプレート装着時には、隣同士高さの違うものを装着すること。
- 5) プレート 0309-XXX・0310-XXX・0311-XXX・0312-XXX・0313-XXX・0314-XXX 使用時の、ロッキングドリルガイド、ロッキングドリルガイドロングの取り外しは、ロッキングドリルガイドロングから取り外すこと。
- 6) ロッキングガイドレンチはロッキングドリルガイド装着時には使用しないこと（取り外し専用）。
- 7) ロッキングガイドレンチ S2 はロッキングドリルガイド S2・ロッキングドリルガイドロング S2 装着時には使用しないこと（取り外し専用）。
- 8) ロッキングガイドレンチ-K は鋼線ガイド装着時には使用しないこと（取り外し専用）。
- 9) ドライバーでスクリューをトレイから取り出す際にはスクリューの落下に十分注意すること。
- 10) ドライバーでスクリューを止める際に、過度の力で回すとヘッドが破損するので、注意すること。
- 11) ロッキングドリルガイド・ロッキングドリルガイドロングを使用してドリリングを行う際はドリルガイドに負荷が加わらないよう、十分注意すること。
- 12) ロッキングドリルガイド S2・ロッキングドリルガイドロング S2 を使用してドリリングを行う際はドリルガイドに負荷が加わらないよう、十分注意すること。
- 13) 鋼線ガイドを使用してドリリングを行う際はガイドに負荷が加わらないよう、十分注意すること。
- 14) ロッキングデプスガイド、2.3mm ドリルは近位ロッキングホールにのみ使用すること。また、骨孔が傾斜していた場合は、ロッキングスクリューが正しくロックされないことがあるので注意すること。
- 15) 抜去するスクリューのヘッドに付着する骨、軟部組織を完全に切り除いた後に本品を装着し、抜去すること。
- 16) 本品をスクリュー進入方向に垂直に押し当て、ヘッド部に均等な力が加わった状態で旋回すること。均等な力が加わっていない状態で旋回はヘッドの変形を引き起こし、スクリューの破損やなめにつながる。
- 17) 最初に近位骨幹部を固定しているスクリューを抜去し、次いで遠位側のロックピンを抜去し、最後にロッキングスクリューを抜去すること。
- 18) 複数のロッキングスクリューを用いている場合は、一本ずつ抜去せず、全てのロッキングスクリューを少しずつ均等に緩めながら抜去すること。一本ずつ抜去してしまうと、プレートに張力が生じ、スクリューの破損につながる。
- 19) 固定期間が長くなると、スクリューと骨が密着し硬く固定されるため、慎重に旋回すること。
- 20) スクリューヘッドがなめかけた場合は、他のスクリューを緩め、負荷を軽減させてから再度操作を行うこと。
- 21) 器具が破損し、破片が体内に残留した場合は取り除くこと。
- 22) 橈骨プレート圧着鉗子 2 は圧着鉗子プレートを組み合わせて使用すること。本添付文書記載以外の類似製品との組み合わせはしないこと。

【使用上の注意】

1. 使用注意（次の患者には慎重に使用すること）

骨癒合後、長期間経過して、インプラントと骨の固着が非常に強いと考えられる患者。[本品の性能以上のトルクを要した場合、本品又はインプラントの破損のおそれがある。]

* 2. 重要な基本的注意

- 1) ひどく傷がついたり磨耗している切削器械（ドリル、ガイドピン、リーマー等）は破損するおそれがあるので、絶対に使用しないこと。
- 2) リーマー・ドリル等の使用において、時間を要する場合は、摩擦熱が生じることで本品に過剰な熱が伝わり、骨や周囲組織の損傷がおこる恐れがある。無理に使用を継続せず適宜、操作をやめ、本品に付着した骨屑を除去したり、注水するなどして本品を冷やし慎重に使用すること。
- 3) 「φ2.2目盛り付ドリルビット」は、「A0 チャックドライバー（L）」に装着して、徒手にて骨を穿孔するための専用ドリルである。パワーツールに装着して使用するとドリルビットの変形や破損のリスクがあるため、使用しないこと。
- 4) 抜去中にインプラントまたは器具器械の破損が生じた場合には、無理をして継続せず他の方法を検討して対応すること。

3. 相互作用

1) 併用禁忌（併用しないこと）

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
本添付文書に記載されている以外の骨接合用品への使用。	インプラントおよび器具の破損の可能性が高まる。	インプラントサイズと正確に適合せず器具が正しく使用できない。
本添付文書へ記載されている以外の器具器械との併用。	インプラントおよび器具の破損の可能性がある。	インプラントサイズと適合せず、正しく使用できない。

2) 併用注意（併用に注意すること）

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
原材料の異なるワイヤー、キルシュナー鋼線等と本品の併用による手術中の接触	腐食により不具合を生じる可能性がある。	他種金属等との接触がある場合、接触部分で異種金属が相互に触れ合うと電気化学的腐食効果により腐食が生じる。

4. 不具合・有害事象

本品の使用により次のような不具合及び有害事象がまれに現れることがあるので、異常が認められた場合は直ちに適切な処置を行うこと。

- 1) 重大な不具合
 - ① 器具の破損
- 2) 重大な有害事象
 - ① 感染症
 - ② 金属、異物アレルギー反応
 - ③ 神経損傷
 - ④ 破片物の体内遺残
 - ⑤ 適用部位の骨や周囲組織の穿孔時の熱による損傷

【保守・点検に係る事項】

- 1) 本品の使用後は、洗浄・すすぎ等の汚染除去を行った後、【使用方法等】に示す滅菌方法および条件で滅菌を行うこと。
- 2) 洗浄中又は洗浄後の本品を放置すると錆び等が発生する恐れがあるのでむやみに放置しないこと。
- 3) 洗浄剤は、医療用中性洗剤等の専用の洗剤を用い、適正な濃度で使用する。
- 4) 強アルカリ/強酸性洗剤・消毒剤は器具を腐食させる恐れがあるので、使用を避けること。やむを得ず使用する際は、本品の状態を確認し腐食等が発生しないよう洗浄すること。
- 5) 洗浄の際、本品の表面等にキズがつかないようにブラシ、スポンジ等を使用し、金属製たわし、磨き粉等の使用は避けること。
- 6) 隙間部分や中空穴を有する製品はブラシ等で隙間部分や中空穴部分を入念に洗浄し異物を除去し、洗浄後の製品に異物がないことを十分確認すること。
- 7) ブラシ等で血痕等を除去できない場合は隙間部分等を血液溶解剤ま

たは蛋白分解酵素剤等を用いて洗浄後、超音波洗浄機等を用いて洗浄し、滅菌すること。特に隙間部分は異物が残りやすいので、異物が無い事を十分確認すること。

- 8) 可動部を有するものは可動部分を操作しながら洗浄すること。
- 9) 分解可能なもの或いは組み合わせて使用するものは、最小単位まで分解し洗浄すること。
- 10) 合成樹脂が使用されている製品に高圧蒸気滅菌を行う場合、合成樹脂部分が滅菌トレイ又は滅菌用金網容器等の金属部分に直接触れないよう注意すること。

【保管方法及び有効期間等】

保管条件：高温多湿を避け、室温で保管すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者及び製造業者

HOYA Technosurgical 株式会社

電話：03-5369-1710